

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo) 会報 2013年3月 [第62号]

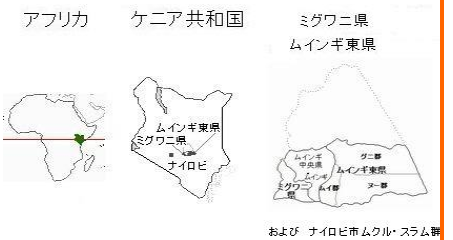
総会資料号

2012年度 活動報告 案

2012年1月～12月

2013年度 活動計画 案

2013年1月～12月



学校-教室建設



学校-環境



学校-保健



地域-保健

2012 年度を振り返り、2013 年度について考える

代表理事 永岡 宏昌

2012 年度は、前年度に開始したケニア共和国ミグワニ県での総合的な社会開発、特に住民参加による子どもの教育と健康の充実に協力する活動を、積極的に展開しました。

教室建設では、前年度から実施している 3 校の建設が完了し、新たに 5 校での建設を開始しました。また、土壌侵食により基礎が崩壊しつつある教室の基礎保全、構造補修を実施しました。小学校での環境活動を 6 校で、学校の状況に合わせて実施しています。

小学校での保健活動では、教員へのエイズ教育集合研修を完了しました。小学校での教員・保護者・子どもへの早期性交渉・妊娠予防研修を開始しました。幼稚園では、子どもの健康に関する集合研修を実施し、5 園で保護者への保健研修と活動を開始しました。

地域住民への保健活動では、エイズと母性保護に関する公開学習会を完了し、その後、基礎保健研修を展開しています。

ムインギ東県では、退出移行期間として、小学校での早期性交渉・妊娠予防研修と、地域エイズ・リーダー研修のための資金の獲得と事業の実施準備を行ないました。

また、次の事業展開の準備として、隣接するマシंगा県での事業形成調査を実施。

2013 年度は、ミグワニ県における社会開発を継続します。

教室の建設、教室周りの土壌保全事業、教室の構造補修事業を引き続き実施します。小学校において、子どもの健康・栄養改善や、校庭の土壌保全につながる環境活動を継続します。保健教育では、エイズ教育集合研修の修了者が小学校でのエイズ公開授業や子ども発表会を実践することに協力します。また、特定小学校を訪問しての早期性交渉・妊娠予防研修を継続し、教員対象の集合研修の形成を目指します。幼稚園では、特定の幼稚園での保護者が参加する保健活動を継続しながら、多くの幼稚園での子ども成長記録作り活動の形成を目指します。

地域での保健活動では、住民への基礎保健集合研修を完了し、修了者のなかから意欲の高い住民を選抜して、地域エイズ・リーダー集合研修の形成と、リーダーによる村でのエイズ学習会の開催へ協力します。

ムインギ東県では、引き続き退出移行期間として、早期性交渉・妊娠予防研修と、地域エイズ・リーダー研修を実施します。

新規事業展開では、マシंगा県の事業形成を目指し、ザンビア共和国などでの調査を継続します。

ケニアの概況

2013 年 3 月 11 日

大規模な暴力を引き起こした 2007 年 12 月の総選挙から 5 年、ケニアでさまざまな改革が行なわれてきました。2010 年に新憲法を制定し、国民の人権の尊重、新たな独立した選挙管理委員会の設置、大統領の権限の縮小、47 地方 (County) の設置と地方首長 (Governor) を選出する地方自治体制などを規定しました。一方で、2007 年選挙後暴力を首謀・扇動したと疑われる個人への裁判は、国際刑事裁判所 (ICC) に委ねつつ、ケニア政府は裁判の延期を働きかけ続けていました。

総選挙については、新憲法に定められた 2012 年 8 月、これまでと同様日程での 12 月、国会議員の任期満了後の 2013 年 3 月が議論されながら、最後の 3 月での実施となりました。大統領当選には、全国過半数の得票と 24 地方以上での 25% が必要で、民族の連携を重視します。その駆け引きのなかで、ウフル・ケニヤッタ氏 (大統領候補) とウィリアム・ルト氏 (副大統領候補) が連携しましたが、ふたりは、ICC の裁判では、それぞれ互いの民族への暴力を扇動した 2 事件それぞれの被告でもあります。

大統領選挙に関する事前の世論調査とさまざまな分析では、ケニヤッタ氏とライラ・オ

ディンガ氏 (首相。キバキ大統領は不出馬) との上位 2 名となるが、過半数は獲得できず、決選投票となり、オディンガ氏が第 3 位の候補と連携して大統領となるとの見方でした。

2013 年 3 月 4 日に投票。6 日までに大勢判明を予定していたものが、実際の発表は 9 日午後まで遅れました。選挙期間中から開票作業が遅れて極度に緊張する中で、一貫して国民の自制と平和な選挙が強調され、ケニヤッタ氏が投票の半数を 0.07% 上回る得票で大統領当選が宣言されました。オディンガ氏は、選挙の不正を指摘しつつも、前回とは異なり、支持者の抗議行動は求めず、最高裁に当選の無効を提訴の予定ということで、平和裏に選挙を終えることができました。

結局、既存の政治リーダーは、民族ごとに支持票をとりまとめることはできても、国のリーダーとして、それ以上の存在にはなりえていない、といえるのではないのでしょうか。

今後、ICC 被告でもある正副大統領による国家運営という、国際社会のなかで協調が難しい状況になると思われます。そうであれば、なおさら、貧しい草の根の住民が、自らの社会的能力を向上させて生き延びていくことに協力する、当会の事業が重要になると思います。

ケニア共和国*での活動

ミグワニ県ノムインギ東県

学校：教育

＜運営能力向上と教室建設・補修他＞
—ミグワニ県

2012 年度活動報告

ミグワニ県において、小学校の保護者の学校運営能力向上も目的とした、教室建設を継続した。加えて、傾斜地に建てられ、土壌侵食により教室の基礎が露出して補強が必要な教室に対して基礎保全、老朽化した教室の構造補修も始めた。建設と同様に、運営能力向上も目的としている。

教室建設では、2011 年度に開始した新設校 3 校(イゼンゼ小学校、ムルリニ小学校、マサーニ小学校)で、6 月までに各 1 教室(プラス 1 基礎)の建設が完了した(前の 2 校は 2011 年、マサーニ小学校は 2012 年 2 月に建設を開始した)。

2012 年度は全小学校から対象とし、5 校において、教室建設の活動を行なった。6 月に 4 校(カンベンベ、カトテニ、キュウシャニ、マズンジニ)、11 月に 1 校(ウイニニ小学校)の保護者総会で、まず「学校運営能力向

上に関する覚書」を締結して、学習会を開催した。

当会の専門家、調整員が、学校運営と管理能力向上に関連して、運営能力向上・資材管理・職人雇用、そして建設・補修のための技術指導として、現地資材・レンガ作り・レンガ焼成を教えた。

学習会と平行して、保護者は担当する資材の収集を行ない、終了後、10~11 月に 4 校、12 月 1 校で「教室建設に関する覚書」を締結し、建設作業を開始した。

また、教室の基礎保全が必要な 3 校(キルング、クワキエル、ムズンズー学校)で、リテンド壁(土を保留するための壁)の設置と埋め戻しによって、基礎を保全した。

うち前 2 校と 2 校(キトゥンビ、シヨゴニニ小学校)で、6~7 月に能力向上の覚書を締結。学習会の開催、資材収集の後、10~11 月「教室補修に関する覚書」を締結し、教室の壁の要所を削って鉄筋コンクリートの柱を挿入する構造補修を実施している。教室数は各 3 教室。

2011 年度に活動を終了したムインギ東県では、貸し付けを行っていた学校からの回収を 3 月までに完了した。

* これまでケニア共和国のあとに「東部州」を入れていましたが、現在、州の区分はなくなり、47 地方(County)に区分されていますが、現在のところ移行期にあるため、県名のみを記載しています。

2013 年度活動計画案

◇運営能力向上と教室建設・補修

ミグワニ県において、小学校の教室建設、構造補修、基礎保全の活動を継続する。2012 年度から継続している 5 校で 1 教室プラス基礎の完成を目指す。教室の基礎保全については、3 校目の完了を目指す。教室の構造補修は、4 校 12 教室の完了を目指す(完了の時期は 2014 年 2 月まで)。

また、ミグワニ県で新たに全小学校からニーズの高い小学校を確認して、教室建設を 4 校 4 教室、教室の構造補修を 6 校 18 教室、教室基礎保全を 4 校程度で実施する予定である。

◇幼稚園での園児用トイレの建設

幼稚園での保健活動(p.7 参照)の一環として、幼稚園の教室(小学校に併設されているので、同じ敷地)に近い場所に、園児用のトイレの建設を行なう。

◇小学校・幼稚園への水タンクの供与

教室建設に使用する水、また、生活用水の確保が難しい小学校、幼稚園へ水タンクを供与する。

タンクの台座と屋根から雨水を導入する樋の設置に協力して、学校の保健活動・給食に活用できるようにする。

学校：環境

＜環境活動の促進＞

—ミグワニ県

2012 年度活動報告

ミグワニ県の小学校 7 校で、各校の状況に合わせて、土壌保全、植樹、菜園、乾燥野菜作り、学校給食など、保護者による環境活動を実施した。

土壌侵食が深刻な 2 校(キルング、クワキエル小学校)では、2011 年度に続いて、また新たに 1 校(ムズンズー小学校)でも、前項のように基礎保全活動を実施。2 校(ムルリニ、トゥミラ小学校)で、校庭全般の地表水の排水と土壌保全について、公衆衛生官、教育官と共同で調査を行なった。子どもの健康状態の改善を目的に、保護者による学校菜園等の活動を 3 校(ムルリニ、ムークニ、ムスアニニ小学校)で実施。うち 2 校では、収穫した野菜を利用した給食作りが行なわれた。

2013 年度活動計画案

ミグワニ県での特定小学校での、学校の状況に合わせた環境活動として、土壌保全、植樹、菜園、乾燥野菜作り、学校給食などを実施する。前項の基礎保全のほか、2012 年度に調査した 2 校での校庭全般の排水と土壌保全を活動として実施する。

学校：保健

<研修>

—ミグワニ県、ムインギ東県

2012 年度活動報告

◇教員対象エイズ教育研修

ミグワニ県の小学校の教員を対象にして、エイズ教育研修を継続し、2011 年度に開始した第 1 課程、第 2 課程に加え、第 3 課程を実施した(いずれも 2 日間)。5 つの全教育区において完了した。各課程の内容は、エイズに関する理科的知識、低学年、そして高学年に対するエイズ教授法を取り上げている。教育事務所の協力もあり、多くの教員が参加した。第 1 課程は 80 名、第 2 課程は 187 名、第 3 課程は 271 名になる。

◇エイズ公開授業とエイズ子ども発表会

ミグワニ県の 6 校で、エイズ教育研修に参加した教員による公開授業が行なわれた。また、5 校で教員による授業を受けた子どもたちがエイズについて表現する発表会が開かれた。

◇早期性交渉* 予防研修

教育事務所がミグワニ県において、子どもの妊娠問題が深刻な小学校を特定し、10 校で、早期性交渉予防研修を実施した。ムインギ東県と同様、最初の日は教員向けの研修、次に保護者向けの研修と教員と保護者の話

し合いを行なう。両者の合意のもとで、最後に、学年あるいは年齢でグループに分けた子どもたちへ、当会の専門家、調整員が保健の話を行なった。参加した人数は 10 校で、教員 100 名、保護者 703 名、生徒 2005 名。

ムインギ東県における早期性交渉予防研修への資金は得られたが、実施は 2013 年度になる。

2013 年度活動計画案

ミグワニ県において、前年度に終了した教員対象エイズ教育研修のフォローアップの一環として、小学校でのエイズ公開授業・エイズ子ども発表会の実施を促進し助言する。

早期性交渉予防研修については、新たに問題が深刻な小学校を特定して、活動を継続する。また、当会エイズ教育研修を修了した教員を対象に、子ども、保護者、同僚教員に早期性交渉予防を教えるための集合研修を形成する。

ムインギ東県においても、特定校での早期性交渉予防研修を実施し、集合研修の形成・実施にも努める。

* 2010 年にムインギ東県教育局長の要請から、女兒の妊娠を予防するために「早期妊娠予防」として研修を開始しましたが、「早期性交渉予防」のほうが、内容を適切に表しているので変更します。

学校—幼稚園：保健

<保健活動の促進>

—ミグワニ県、ムインギ東県

2012 年度活動報告

ミグワニ県において、幼稚園関係者を対象に、子どもの健康に関する集合研修の前期課程を、2011 年度に行なっていなかった 1 教育区、後期課程を全 5 教育区で 2 月までに実施した。参加者は前期 26 名、後期 97 名。研修終了後、体重計を供与し、成長の記録カードを配布した。

5 つの幼稚園(マサーニ、ゴニ、カンゲゼニ、カトゥウ、ムークニ幼稚園。いずれも小学校併設)と保健活動の覚書を締結し、保護者対象の保健活動を開始。子どもの健康に関する研修、食器置き棚作りや遊具づくり研修を開催した。

ムインギ東県の幼稚園に対しても、5、6 月に成長の記録カードを配布した。

2013 年度活動計画案

ミグワニ県において、前年度からの個別幼稚園の活動を継続し、新たな幼稚園での活動も開始する。

そのなかで、必要に応じて幼稚園児用のトイレ建設や、水タンクの供与(p.5 参照)と水と健康に関する研修も実施する。

地域：保健

<研修と学習会>

—ミグワニ県、ムインギ東県

2012 年度活動報告

ミグワニ県において、前年度に始めたエイズと母性保護学習会を継続し、完了後に、基礎保健研修を実施した。

◇エイズと母性保護学習会

ミグワニ県の各村において、2 つのテーマで公開学習会(各 3 時間)を継続して開催した。区の助役と協働で、村長老(村の公的リーダー)を招集して、地域の健康に関する戦略会議を持った後、その協力を得て実施。

内容は異なるが、どちらも最初に「ピーターとジェーン」と題した事例を取り上げ、当会の専門家が参加者の意見を聞く。その後、エイズでは HIV 感染経路、予防の方法、発症を遅らせる方法などについて話し、コンドームの使用を説明する。母性保護では、安全な妊娠出産のための情報を提供する。

6 月までに全 36 準区で完了した。2012 年度は、エイズ公開学習会は 31 回開催し、544 人が参加、母性保護は 26 回で、400 人が参加した。

2011 年度は、エイズ 47 回、1328 人、母性保護 49 回、1404 人。合わせて、エイズ公開学習会は 78 回開催し、1872 人が参加、母性保護は、75 回で、1804 人が参加した。

◇基礎保健研修

6月から、5つの区の準区レベルで3日間の基礎保健研修を展開した。受講者の各村からの選出は、助役の協力を得て、準区ごとの集会(バラザ)で行なう。ムインギ東県においては、まず、出産適齢期の女性、次に男性対象に研修を行っていたが、ミグワニ県では男女は問わない。

研修の内容は、1日目は衛生と一般的な病気、2日目は栄養、性感染症、母性保護、3日目にエイズに関する講義がある。2日目の最後に、グループワークを行なう。参加者は地域の健康に関する問題と改善していく方法を話し合い、代表者が発表して共有する。

30準区(36準区のうち)で開催。1327人が修了した。

◇エイズ・リーダー研修

ムインギ県において、地域住民に対して、エイズに関する知識を教えていけるリーダーを育成することを目的とした研修は、退出移行期間*の2012年度の継続する予定だった。資金は得たが、実施は2013年度に延期となった。

*1998年の設立時に開始したムインギ東県における活動は、2011年12月に終了しました。2011年度からは3年間程度を退出移行期間として、新たに開始するのは、重要な事業を小規模にと限定。早期性交渉予防(p.6参照)とエイズ・リーダー研修を2012年度も計画していました(その他、幼稚園の成長の記録カードの配布は継続)。

2013年度活動計画案

◇基礎保健研修

ミグワニ県において、前年度から実施している基礎保健研修を残る6準区で行ない、完了する。

◇エイズ・リーダー研修

基礎保健研修の完了後、修了者のなかから選抜して、準区ごとにエイズ・リーダー研修を実施する。

この研修では、参加者が、エイズに関する情報を地域の住民へ体系的に説明できるようになること、コンドームの適切な使用方法を具体的に説明できるようになることを目指す。さらに、研修修了者が、住民を集めてエイズ学習会を実施し、当会専門家が参加して助言し、適切にエイズを説明できた場合、地域エイズ・リーダーとして認定する。

ムインギ東県においても、エイズ・リーダー研修を実施する。

◇早期性交渉予防研修

ミグワニ県で、子どもの性交渉・早期妊娠が地域の問題としてとらえられている学校・地域社会において、小学校で実施している早期性交渉予防研修を発展させる。行政官、住民代表、小学校教員、保護者代表を対象に、同様の知識・情報を伝え、子どもを性交渉から守る具体的な方策を話し合う研修の形成を目指す。

ナイロビ市ムクル・スラム群

教育

<高校生への補習授業>

2012年度活動報告

スラム在住の高校生を対象に、受講した経験のある大学生が講師を務める、休暇中の補習授業の実施は、2012年度は4月のみとなった(10日間)。8月には、全国一斉に補習授業を禁止する通達があった。当初、実施の可能性があった総選挙は延びた12月は、講師が教育事務所に問い合わせたところ、「実施している、という立場ではない」との返答があり、実施を見合わせた。

なお、従来から教育省の中には「休暇期間中に有料の補習授業はよくない」という考えがあったが、「(諸条件で)遅れている子どもたちに対しては、実施しても問題ない」とされていた。

2013年度活動計画案

補習授業の実施について、教育事務所からの許可を得ることを条件に、スラム在住の講師による自律的な高校生への補習授業の実施に協力する。

マシガ県

2012年度活動報告

マシガ県は、ミグワニ県の西、ナイロビ寄りに隣接し、ミグワニ県、ムインギ東県同様に、子どもの健康、教育に問題がある。2011年の調査に続き、11月、事業形成調査を実施した。

2013年度活動計画案

マシガ県において、ムインギ東県、ミグワニ県の経験を統合した総合的な社会開発事業の形成を目指す。

他のアフリカの国での活動

2012年度活動報告

2011年度に調査を行なったザンビアにおいては、2012年度は実施しなかった。

2013年度活動計画案

引き続き、他のアフリカの国での活動の形成を検討する。

国内活動

1. 広報

◇会報『CanDo アフリカ』を4回発行：第58号(3月)は総会資料号。59号(6月)「教室建設・補修と土壌保全」、60号(9月)「学校保健」、61号(12月)「地域保健」他を掲載

◇小冊子発行：『ケニアの大人から子どもたちへ 保健のおなはし〜早期妊娠予防研修の進め方ノートから〜』(10月)

◇ウェブサイトの一部リニューアル(11月〜)

◇イベントに出展：グローバルフェスタ JAPAN 2012 (10月・東京)

◇連続勉強会開催：「ケニアの人々その抱える課題と参加型開発協力の役割」。講師は永岡宏昌代表理事(5〜6月全5回。木曜または金曜夜。JICA 地球ひろば)

◇他の媒体での広報：「なんとかしなきゃ！プロジェクト」教育イシューで報告

2. 他団体・機関との連携・協力

教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)運営委員、JANIC・「動く→動かす」正会員。「世界中の子どもに教育を」キャンペーン賛同団体、「MDGs2015 キャンペーン」(〜3月)・「なんとかしなきゃ！プロジェクト」メンバー。

NGO-JICA 協議会「草の根技術協力事業10年の振り返りのための分科会」委員、外務省・JICA と NGO との協議会に出席(永岡)。

3. 活動経験の提供・講師派遣

東洋英和女学院大学大学院(11月)、龍谷大学(12月)で講義(永岡)。

2013 年度活動計画

広報

◇会報を4回発行

◇小冊子『CanDo の15年のあゆみ』発行

◇ウェブサイト過去の流れを追加

◇イベントに出展：アフリカンフェスタ 2013 (5月半ばの予定・横浜)、グローバルフェスタ JAPAN 2013(10月・東京)

◇15周年記念報告会を開催(5月)

◇連続勉強会「ケニアの人々その抱える課題と参加型開発協力の役割」開催(5〜6月。全7回)

◇他の媒体での広報：「なんとかしなきゃ！プロジェクト」アフリカ・イシューへの投稿他(2〜6月)

他団体・機関との連携・協力、活動経験の提供・講師派遣を継続する。

組織運営 総会・理事会／スタッフ／支援および事業委託元機関・団体

2012 年度報告

◇年次総会：3月31日に開催。2011年度活動報告・会計報告が承認され、2012年度活動計画・予算を決定。理事7名、準理事5名、監事2名を選任、代表理事永岡が再任。

理事：川越朋子(新任)、國枝美佳、佐久間典子、永岡宏昌、中澤和男、藤目春子、明城徹也(以上再任)／準理事：竹直樹、野木美佐子(以上、前理事)、中塚史行、矢澤宏之(以上再任)、満井綾子(新任)／監事：加藤志保、國枝信宏(以上再任)

◇理事会：第1回(3月31日)-総会の5議案を承認／第2回(12月27日)-2012年度活動報告案、東京・ナイロビ事務所試算表、2013年度活動計画案、同予算書案を検討し、2013年度年次総会での役員(準理事)追加選出、預託金の第2回募集を決定。他に理事懇談会(7月28日)-事業進捗状況報告、今後の計画、試算表、出張規程(改訂版)を確認。

◇監査：ケニアで2013年2月、監査法人Easterbrook&Co.による外部監査、日本で3月、監事による内部監査を実施。

◇スタッフ—ケニア

調整員：景平義文(〜2月)、石田純哉、伊東彩、小山杏菜(*8〜12月)、カンダリ・ムロンジア、ピクトリア・ムニリヤ(〜8月)、／調整員助手：パトリ

ック・マサイ、ピーター・カランバ、クレネス・ムティンダ(〜8月)、エスタン・ドウ、レンソン・ムタンギヤ、グレース・ティタス、ジャネット・マカウー(3月〜)、エリザベス・ムニヤチャー(3月〜)、ジョサイア・キトンガ(9月〜)、フレドリック・ザンギ(9月〜)、レベッカ・ムワンガンギ(9月〜)

インターン：藤原くみ子(〜2月)、水口夏希(〜3月)、竹下加奈子(〜2月)、横田陽紀(〜6月)、小林由佳(2〜8月)、山越泰斗(2〜8月)、小山杏菜(2〜7月*)、鬼頭景子(6月〜)、山田夏子(7〜12月)、大谷佳代子(9月)、合田暁良(9月〜)、福田幸(9月〜)、才田恵里奈(10月〜)

専門家：保健—茂野綾美(8月)／幼児育成—吉田真季子(9月〜)／建設—フランシス・ムエンドワ、キエマ・ムワンガンギ(4月〜)／教育—マーガレット・ムトウンガ、クリスティン・ダイナ／保健—エリザベス・グリ、ジェイムス・キズク、ベンジャミン・カムティ、ミルカ・カワシア・ゾビ、ジョセフ・チャロ、ジョセフ・マルキ／環境—トーマス・ムシラ
日本からの出張：永岡(1〜3月、6月、8〜11月)、佐久間(6〜7月)、久保内(9〜10月)

◇スタッフ—日本

代表理事：永岡宏昌／事務局長：久保内祥郎／事務局員：佐久間典子／アルバイト：諸泉友香(〜1月)／インターン：1名(〜2月)、樋俣紀(11月〜)

◇支援および事業委託元機関・団体

外務省日本 NGO 連携無償資金協力／世界の人々のための JICA 基金／庭野平和財団／(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)／ヤフー(株)／ユナイテッドピープル(株)／ジャスト・ギビング／(株)ネットフォレスト

事務局から

2013 年度年次総会を開催します

日時： 2013 年 3 月 30 日(土) 14:00～17:00

会場： 汐見地域活動センター2階 会議室 C (東京メトロ千代田線「千駄木」駅より徒歩2分)

議題： 2012 年度活動報告・会計報告／2013 年度活動計画・予算書／

役員(準理事)追加選出／その他

* 同封の案内を参照してください。

報告

◇組織

○2012 年 12 月 27 日、第 2 回理事会を開催。
2012 年度活動報告案、2012 年度 1 月～11 月東京・ナイロビ事務所試算表、2013 年度活動計画案、同予算書案を検討し、2013 年度年次総会における役員(準理事)追加選出、および預託金の第 2 回募集を決定。

◇支援

○2013 年 2 月 25 日、「ミグワニ県での住民参加による教育の質的向上を通じた初等教育普及事業-第 3 フェーズ」の外務省日本 NGO 連携無償資金協力贈与契約を在ケニア日本大使館と締結(上限 42 万 9058 米ドル。3 月 1 日～。2 月 28 日、第 2 フェーズ終了)。

◇国内活動

○2013 年 1 月 17 日、代表理事 永岡宏昌が国際教育開発セミナー(JNNE/早稲田大学アジア太平洋研究センター共催)第 2 回

初等教育の完全普及」で報告。

○1 月 19 日、永岡が京都会議 2013「国際協カフォーラム～ぼくらが世界にできること～」(日本青年会議所主催)に出演。

人の動き

○2012 年 11 月 28 日、樋惇紀(とい じゅんき)が国内インターンとして研修を開始。

○12 月 21 日、短期調整員(8 月～。インターン～7 月)小山杏菜が任期を終了。

○12 月 30 日、インターン山田夏子が研修期間を修了してケニアから帰国。

○2013 年 1 月 9 日、インターン合田暁良がケニアから帰国。

○1 月 19 日～28 日、永岡が草の根無償フォローアップ事業でタンザニア出張。

○1 月 20 日～27 日、調整員 伊東彩が同じくタンザニア出張。

○1 月 30 日、永岡がケニアに出張。

CanDo アフリカ [第 62 号]

2013 年 3 月 9 日発行

発行人:

永岡宏昌

編集人:

佐久間典子

発行:

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中 2-9-14 第 2 森川ビル B 号室

電話/FAX:

03-3822-1041

電子メール:

tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト:

http://www.cando.or.jp/

郵便振替:

口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会